

## 第12回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

### 1. 日程

日時:平成26年8月26日(火) 13:00~16:00

場所:Jヴィレッジ(福島県双葉郡檜葉町)

### 2. メンバー

政府: (議長):赤羽原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:豊島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長(代理)

農林水産省:中津水産庁研究指導課長

国土交通省:渥美河川環境課長

環境省:大村水環境課長

廃炉・汚染水対策チーム:糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、  
江口対策官、豊口企画官

廃炉・汚染水対策現地事務所:野田所長、木野参事官、遠藤調整官、  
小野対策官、有賀対策官

東京電力:増田廃炉推進カンパニープレジデント、有馬バイスプレジデント、白川福島第一原子力  
発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁):山本審議官、小坂地域統括管理官

### 3. 結果概要

#### (1) 議長冒頭挨拶

○夏の暑さがまだ続いており、現場では厳しい環境下での作業が行われているものと推察する。依然として熱中症が発生している状況も聞いており、引き続き作業環境と労働環境への配慮を怠らないように、万全を期して改善対策を進めて頂きたい。

○地下水バイパスについては、本格運用開始から約3ヶ月経過したところである。地下水バイパスの井戸の下流の観測孔では、すでに20cmから30cm程度の水位低下が確認されており、その効果の評価結果について報告を受ける予定である。

○サブドレン等浄化設備については、本日、実際にサブドレンで汲み上げ地下水を用いたH  
OT試験の結果の報告がある。浄化した水を海に排水することについては、漁業者を始め

とした関係者の御懸念が強いので、浄化の効果、安定稼働できること等、御不安に対して丁寧に説明し、理解を得ていくことが極めて重要である。

○タンクの設置に関しては、汚染水対策全体に関わる重要な課題である。本日は、リプレース等に関する状況や今後のスケジュールについて説明を受け、議論したい。

○多核種除去設備（ALPS）は、6月以降3系統が順調に稼働し、処理を進めているところ。本日は、その除去効果の改善について説明があるほか、増設、高性能ALPSの進捗状況についても報告を受ける予定である。

○その他、凍土遮水壁、フェーシング、タンクの雨樋設置、二重堰への電動弁の設置、津波対策などについても進捗状況等の報告を受ける予定である。

○海水配管トレンチは、一部は凍結しているものの、完全に凍結するには至っていない状況と認識している。相変わらず凍土壁と混同した報道が見受けられるので、引き続き丁寧な説明に努めるとともに、早期に建屋とトレンチの間の止水を完了させ、トレンチ内の高濃度汚染水を取り除くよう、対策等について議論したい。

○本日も、活発な御意見をいただき、徹底した議論をお願いしたい。

## (2) 会議概要(主な指摘事項)

### **議題 1**

<資料 1 >

- 地下水バイパスの効果について、建屋流入量として示すべき。
- 港湾内の海中の放射性物質濃度が検出限界値並に極めて低くなっているのであれば、もっと積極的に情報発信すべき。

### **議題 2**

<資料 2 >

- トレンチの凍結止水については東電まかせにするのではなく、専門家の意見も聞くなどし、国も一緒に対応策を検討すべき。流速に原因があるが、汚染水のポンプ汲み上げ量を細やかに制御することができれば、水位変動が小さくなり流速も緩やかになると思われるので検討すべき。
- 立坑の凍結対策がそのまま開削ダクトの対策に使えるとは限らないので、開削ダクトについても注力できるよう態勢を強化すべき。

- フェーシングによる雨水対策に関しては排水についてもしっかり取り組み、また施工計画を示して工程管理を行うこと。広島土砂災害に関連して昨日の廃炉汚染水対策福島評議会にて周辺自治体から1～4号機の法面の崩落を心配する声が出ており関心が高い。
- タンク増設計画についてはタンクの発注先メーカーに対し納期をきちんと守らせるよう、進捗管理を徹底すべき。
- サブドレンについては、運用開始の期限を予め定めることなく漁協等関係者に理解を得るようにするべきである。
- 凍土壁については規制庁よりいくつかの提案があるが解決されれば、速やかに認可する方針とのコメントがあった。

### (3) 次回以降の日程

○次回は9月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)